2006
No. 3
May

メディカルネットワーク

発 行 東京女子医科大学東医療センター 〒116-8567 東京都荒川区西尾久2-1-10
電話03-3810-1111 ＦＡＸ03-3894-0282 http：//www.twmu.ac.jp/DNH/index.html

卒後臨床研修センターの紹介

卒後臨床研修センター長
川真田　美和子



研修センターの紹介をします。研修医新制度開始にはじまり、２年の前期研修を終え、今年度、初めての研修医18名を送りだしました。２年目に入った18名、新１年生21名の研修医が、現在忙しい毎日を臨床研修にはげんでいます。今年度から、歯科研修医２名も加わりました。当医療センターは、１～３次救急医療を受け入れる地域基幹病院で、重症度の高い疾患の患者様が多数訪れることから、プライマリ・ケアーの習得を研修の特長としています。又、研修を成功させる条件として、宿舎の確保（１年目は全寮制）、質量ともの十分な症例の経験などを考えています。学生気分のまだ抜けない医師免許取り立ての研修医を受け入れて２年、研修修了証を受け取る研修医の顔は、自信に満ちあふれた医師の顔つきとなっていました。試行錯誤で始まった新研修制度でしたが、研修医の半数以上が当センターの後期臨床を選択、引き続き専門医を目指していることにより、教育方法に多少の自信を持ちながらも、更なる指導体制の充実のための検討を行っています。指導医の育成のための委員会も発足しました。当センターを巣立った医師が、これからの臨床医療を担い、高い評価をうけられる医師の育成に全病院をあげて努力していくつもりです。





臨床研修医修了証書授与式

検査科光学診療部の紹介

検査科 教授　芳賀駿介



平成17年12月から１号館Ｂ１Ｆに検査科光学診療部が新装オープンしました。施設には、内視鏡室３部屋、準備室、診療室、カンファレンス室、回復室、車椅子用トイレ等を設置しました。新たに内視鏡洗浄機２台を追加導入し、国際標準に則った全患者間の内視鏡洗浄消毒を行い、感染対策を強化しました。また、内視鏡後患者様がゆっくり休めるように、回復室には、リクライニングチェアーを導入し、安全で快適な内視鏡検査および治療を目指しております。運営は、加藤博之助教授を中心に日本消化器内視鏡学会指導医４名、専門医５名の体制で行っております。

さらに、平成18年１月からは、地域連携室を介して検査科ダイレクトオーダーシステム（検査科ダイレクト）と称した近隣の医療機関から直接検査科光学診療部への消化器内視鏡検査、治療や診察の予約受け付けを開始しました。待ち時間がほとんどなしに、初診から内視鏡検査、結果説明まで当日に終了するので、患者様にも好評を得ております。検査結果は、紹介医に報告し、紹介医では結果を基に引き続き診療をしていただくことになります。現在は光学診療部のみですが、今後超音波診断部のダイレクトオーダーも検討中です。東医療センターのホームページの検査科の項目に詳しく出ておりますのでご参照下さい。

（http://www.twmu.ac.jp/DNH/shoukai/kensa/kensa/TOP.html）

また、詳細説明用紙が必要であれば、地域連携室へご請求いただければ郵送いたします。

これからも、地域との関連を重視して、安全、迅速で正確な内視鏡検査と治療を行っていきますので、ご意見等頂戴いただければ幸いです（hikatocl@dnh.twmu.ac.jp）。

耳鼻咽喉科



耳鼻咽喉科 教授　新井 寧子

耳鼻咽喉科は昭和９年の尾久病院開院時から続く72年の歴史を持つ科です。

昨年のクリスマスイブに、１号館２階、眼科外来の隣に引っ越しました。

改装のコンセプトは、患者様間のプライバシーを守りつつ医療者にはオープンに。大学病院の良いところは複数の医師が患者様を診ることです。他科の先生の意見をすぐ聞ける大きなメリットに加えて、耳鼻咽喉科という小さな診療科でも複数の医師と複数の看護師がいて、直接診ている医師は一人でもいつも誰かが後ろに控えている、大部屋の良さと個室の良さを併せ持つような外来にすることでした。そのためにあえて「主治医制」を取っていません。限られた診療室、限られた時間で、いつも希望の医師が診察するというわけにはいきませんが、一週間前に確認の上ご来院頂ければ、出来る限り希望の医師の診察を受けられるように努めております。

耳鼻咽喉科の病気で生死を決定するものは少なく、日常生活の質を下げるもの（鼻閉・難聴など）、長い目では命を縮めるもの（睡眠時無呼吸・真珠腫など）、何ヶ月も頻回に治療が必要なもの（蓄膿症・耳管狭窄など）が多いので、緊急よりも予約制の特殊外来を重視しています。もちろん、明日まで待てない緊急の患者様には24時間対応しますが、人手不足で当直体制がとれないので、まずは電話でご相談ください。

世界一のケーキ職人が作るケーキのレシピは普通のレシピだそうです。普通の病気を普通の医師が、普通に診ていて病気が良くなる病院でありたいと思います。病気には理由があり、その理由がわかれば治療の成績が上がります。理由探しと現状の記録が検査です。検査の結果は患者様とは無論のこと、身近な地域の先生方とも共有します。

「病は気から」気とは、身体中を回るエネルギーのようなもので、「気」が回らないと機能が止まって病気になるのです。初めのうちは気を動かしてあげる薬や体操で「**病**んだ**気**」が「**元**の**気**」になりますが（突発性難聴・めまい・アレルギーなど）、ひどくなると手術も必要になります。とにかく、局所を見ながらトータルで良くする治療を目指しています。

新装なった 外来紹介



外来では朝から混雑しており、場合によっては長時間お待たせすることもあります。しかし、診察医師が努力し、なるべく待ち時間の短縮を心がけております。各先生ごとに患者様の待ち時間がわかるようにテレビモニターに表示しております。

整形外科待合室

眼　科



眼科 教授　松原　正男

眼科外来が１号館２階へ最初に移動して、すでに一年以上が過ぎました。２階ではこれまで単独で外来を行っていましたが、皮膚科と耳鼻咽喉科が加わることによってようやく外来フロアらしくなってきました。

エレベーターを降りるとそこがすぐに眼科の待合室です。１階の狭い廊下の両側にお待ちいただいていたこれまでに比べ非常に改善されており、この点は大変に嬉しいことです。内部では、暗室はそれぞれの診療ブースが広くなった上に、着座して診察が始まるとダウンライトが自動的に消えるような照明の工夫が凝らされています。視野専用検査室を含む複数の検査室、レーザー処置室、相談室が確保されており、落ち着いて検査や処置ができるようになっています。外来手術室では眼瞼など外眼部の処置に十分対処できる体制が整いました。眼科に欠かせない視力測定のみならず、視野検査も待合室から直接入室できるようになっており、診察と動線が重なって混雑しないような部屋の配置です。

新装なった外来で、職員一同気持ちも新たにして、先進医療を継続して提供できるよう努力していきますので、よろしくお願いいたします。



眼科外来診察室

小児科



小児科　講師(外来医長) 伊藤 けい子

小児科外来は、2006年が明けてすぐに１号館の右手奥に引っ越しをして、内装を新たに再スタートいたしました。

待合室には付添の方が座って待っていらっしゃるところから、すぐに目が届く場所にカラフルなクッションで囲ったプレイスペースを設け、さらに授乳室や中待合の廊下の幅も広くなりゆとりが生まれました。一般の診察室も１つ増やして６つに、また感染症室も１つ増やして２つになりました。第一診察室は学生が外来実習で陪席させていただくこともあるので、狭くて患者様に負担がかからないように以前よりもスペースを広げました。心理相談室も可愛らしく落ち着いた雰囲気にできあがっています。

また、明るく和むような小児科外来にしたいと考えて、グラフィクデザイナーの方と相談して、各診察室のドアに動物たちのイラストを貼りつけてもらうことになり、とても可愛い絵が描かれています。イラストは当小児科看護助手日置友子さんの作品です。

以前は待合室に人が溢れ、すぐに外気と接する場所でしたので、冬は寒く大変お気の毒で申し訳ない状態でしたが、患者様のお母様方からも「今は待合室が広くなって建物の奥なので寒くないし、きれいになりましたね。」とおっしゃっていただき、各ドアのイラストも好評です。

また今年の６月初旬ごろより、お待ちになる時間の短縮改善のため患者様から直接電話で予約をしていただける「電話予約システム」を導入する予定で現在準備中です。

気持ちも一新し、笑顔で接して患者様方に気持ち良く受診していただけますよう、スタッフ一同頑張りますのでどうぞよろしくお願い申しあげます。



小児科待合室



整形外科　教授
井上　和彦

整形外科外来では診察室が一つ増加して、五診にて行われています。

毎日一般外来のほか専門外来として月曜日は、膝、股関節、リウマチ、脊椎、火曜日は股関節、リウマチ、水曜日は股関節、リウマチ、肩、木曜日は股関節、リウマチ、脊椎、膝、金曜日は足の外科、膝、肩、股関節を中心に診療を行っています。

特にリウマチにおいては寛解に導入可能な生物学的製剤の注射療法などを含めて月に三〇〇人以上のリウマチの患者様が全国から来院されているのが特徴です。

スポーツ外来も土曜日整形外科外来にて行っております。筋力測定器（バイオデックス）にてリハビリも行っています。

一日一六〇人以上来院する整形

皮膚科



皮膚科 教授　原田　敬之

病院施設の整備計画により皮膚科外来は昨年11月に３号館２階より１号館２階に移転致しました。この階は眼科、耳鼻咽喉科の３科があり、いわば“感覚器疾患部門”といえます。以前の外科病棟のあとが改修された訳ですが、現在の建築技術は素晴らしいものがあり、その面影がほとんどないくらい一新されました。

皮膚科は診療の際に自然光で発疹を観察することが必須であるため、改修前の状態ではなんとなく薄暗い感じがしましたが、これも壁面の塗り替えなどでたいへん明るい、気持ちの良い外来となりました。受付、予診室、初診室、２つの再診室、処置室、光線治療室、など旧来の外来と広さはあまり変わりはありませんが、外来での小手術や生検、軟膏処置、諸検査などを効率よく行えるように配置や工夫がこらしてあります。欲をいえばきりがありませんが、一応ハードの面は整備されてきましたので、皮膚科を受診される患者様が十分に満足されるような、より良い、より質の高い医療を行うべく医局員全員が努力致す所存です。

適切な症例がございましたら、ご紹介頂ければ幸甚でございます。



皮膚科待合室

防災訓練

災害対策委員長　松原　正男

東京都は地震などの大規模災害時に対処するために、区東北部において４病院を災害拠点病院として指定しています。その中でも当センターは中核病院と位置づけられており、他の３拠点病院と有機的な連携を持って対処する中心的存在となることが期待されています。

昨年11月15日に防災訓練が行われました。この中でトリアージ訓練というものが実施されました。トリアージとは、災害や事故で多数の傷病者が発生したときに、その方達を重傷度別に分類し、治療や医療機関への搬送の優先順位をつけることです。災害時には多くの方が治療を求めて当センターへ集まることが予想されます。しかし、緊急時ではすべての方にあまねく平等な医療を注ぎ込むことはできず、限られた職員、手持ちの薬品しかない中でできる限りのことをしなければなりません。そのため、怪我人病人の状態を評価して、応急処置で我慢して戴く方、ここで治療をおこなうべき方、他病院へ搬送して集中した治療を依頼すべき方、などを判断し行動します。これがトリアージです。





当センターではこの訓練を毎年行っております。昨年も近隣町会の皆様のご協力を得て、リアルな怪我人やパニック状態モデルを演じていただき、密度の濃い訓練でした。

このほかに同時進行で火災訓練も行なわれ、病棟入院患者さんを公園へ避難していただく演習を行いました。また、仮設トイレや浄水器の展示に加え、水道ポンプが停まった時を想定しての水の配給訓練、さらに緊急時食材の炊き出しを町会の方々のご協力で行なうなど、盛りだくさんの内容を詰め込んだ防災訓練が無事に終了しました。

その後、警察、消防の方から講評を戴き、防災への意識を新たにしました。いくら備えても足りることはなく、また災害は忘れた頃にやってくるものではありますが、日頃から防災訓練を充実させていくことによって、万一の場合に最善のことができるようにしたいものです。

当センターを囲む８町会の皆様には大変にご協力を戴きました。紙面を借りまして厚く御礼申し上げますと共に、災害時における混乱を最小限にとどめることができるよう当センターの役割をご理解下さいますようお願い申し上げます。

地域連携室に関するお問い合わせ先

室　　長　　小児科教授　杉原　茂孝　　担当者　古賀三枝子・佐藤さみ子
代表電話　　０３-３８１０-１１１２(ダイヤルイン)　内線４４５１　　ＦＡＸ　０３-３８９３-０７７２
※ 当院専用の診療情報提供書(紹介状) 用紙をお送りさせていただいております。
※ ＦＡＸにて診療申込受付が出来ます。
※ 診療申込書はインターネットからダウンロード出来ます。
http：//www.twmu.ac.jp/DNH/annai/gairai/dl/sinryoumousikomi.pdf

お知らせ

第８回「東京女子医科大学東医療センターフォーラム」
日時：平成１８年６月２４日（土）午後3時より
場所：ホテルラングウッド 荒川区東日暮里5-50-5
TEL ０３－３８０３－１２３４
講演：「平成１８年度診療報酬改定のポイント」
：「がん外来化学療法の勧めについて」
お問い合わせ先：地域連携室　内線 ４４５１又は
業務管理課　内線 ４４３３
詳細はホームページに掲載予定

編集後記

いつもの年より早く開花した桜、めずらしく期間が長く、どこへ行っても人・人・人でしたが、たっぷりと楽しみました。

新年度がスタートして一ヶ月、新人もやっと職場に慣れ、患者様との会話もスムーズに出来るようになり、医療従事者としての緊張感を持って毎日の仕事に励んでいます。

さて、当院にお越しになった方はご存知でしょうが、殺風景だった待合室・通路にエコロジーガーデンが設置され、眼に優しく、空気が少しきれいになったような気がします。また、女性専門外来・患者相談室も設置されましたので、どうぞお気軽にお声掛けください。

次回の発行は平成１８年１１月を予定しております。

（地域連携室　古賀）